

「ボランティア養成セミナー」【R4.6.4(土)～5(日)】

◆目的

- ・青少年教育施設ボランティアに求められる知識・技能を習得し、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担う人材を育成するとともに、ボランティア活動の推進及び充実を図る。
- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。

◆目標

- ・参加者の8割以上が体験活動の理解を深め興味を持つ。
- ・参加者の8割以上が若狭湾での活動に興味・関心を持つ。

◆参加実績(募集30名)

参加10名 (男性3名 女性7名)

- ① 年齢 10代: 6名
20代: 3名
30代: 1名

② 職種別

高校生 2名
大学生 6名
社会人 2名

◆プログラム

<1日目>

午前

- ・【講義】「青少年教育」(オンライン)

午後

- ・【講義】「ボランティア活動の意義」
- ・【講義・演習】「ボランティア活動の技術」

<2日目>

午前

- ・【講義・演習】「安全管理・救命救急法」

午後

- ・【講義】「青少年教育施設の現状と運営」
- ・【講義】「青少年教育施設におけるボランティア活動」



主催: 国立若狭湾青少年自然の家 令和4年度 普及啓発事業 ボランティア養成セミナー

先輩ボランティアからの一言
 ・「子どもと一緒に自分も成長できた」
 ・「いろんな人と出会えた」
 ・「これからの事を考える場所になった」

ボラセミ

開催日: 令和4年6月4日(土)～5日(日)
 会場: 国立若狭湾青少年自然の家
 (住所: 福井県小浜市田高区大浜)
 参加費: 3,000円(食費、シーツ、保険等)
 定員: 30名程度(高校生以上)
 対象: 青少年教育や自然体験活動に興味のある方
 青少年教育施設でのボランティア活動に興味のある方
 または活動を希望する方

【ボランティア養成セミナー申込QRコード】
 参加希望の方は、こちらのQRコードを
 読み込み、WEBからお申込みください。
 申込締切: 5月20日(金)

やってみよう

わたしたちの経験簿!
 動画みてね!!!

ボランティア養成セミナー実施内容(予定)

6月4日(土)	6月5日(日)
9:30～10:00 受付	7:40 朝食
10:00 開会式・アイスブレイク	9:00 講習④
11:00 講習①	12:10 昼食
12:50 昼食	13:00 講習⑤
13:30 講習②	16:00 閉会式
15:15 講習③(野外体験)	
21:00 入浴	
22:00 就寝	

※当日の天候状況によってプログラム
 内容が変更する場合があります。

※ボランティア養成セミナー終了後、法人ボ
 ランティアに登録すれば、若狭湾青少年自然
 の家以外の全国の国立27施設でも旅費など
 の補助を受けてボランティア活動をすること
 ができるよ。

講習では「青少年教育とは」「ボランティア活動の意義」「ボランティア活
 動の技術」「安全管理・救命救急法」「青少年教育施設の現状と運営」「ボ
 ランティア活動の活動内容」等を学びます。

(3日:前泊) (4日:当日)

迎え 18:20 小浜駅発 8:10 小浜駅発
 18:40 上中駅発 8:30 上中駅発
 18:20 三方駅発 9:00 三方駅発

(5日)

送り 16:30 自然の家発→上中駅17:16発(近江今津駅行きバス)
 17:44発(東舞鶴方面)
 小浜駅17:58発(東舞鶴方面)
 三方駅17:01発(敦賀方面)

駅からの送迎もしています。

お問い合わせ先
 国立若狭湾青少年自然の家
 Tel:0770-64-3100
 担当:岡田、井石、和泉

◆成果

- ・アンケート結果より8割以上の参加者が事業に対して満足と回答し、法人ボランティアに登録後、事業への参加に意欲的な意見が伺えた。
- ・グループワーク等参加者間で自身の考えを交換する場を設けることで、「様々な視点、考え方があることを再認識し、自身の良い機会となった」等の意見があり、各参加者が自身で考え・理解することができた。

◆参加者の声

- ・体験と発見の大切さやボランティアの意義、救命救急法等についてより深く学びました。今までの疑問をプロの方に質問した事で、自分の中のモヤモヤがすっきりに変化し、3大C (Chance, Change, Challenge) の一つを今回の学びを通して経験できたと思います。
- ・体験活動は何の為なのか、どうして大切なかがわからなくなっていたので、再確認できる良い機会になりました。
- ・自然の中で自分を表現したり、見直したりすることができるのがとてもいいなと思いました。
- ・自分の言い方・言葉選びによって相手の態度が変化するので、気をつけようと思いました。
- ・ボランティアについての講義を聞き、実際に活動をすることでボランティアをすることの大切さ・楽しさ・大変さを学ぶことができた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・参加者へ事前に参加動機や目的等を聞き取り、職員・ボラスタッフで情報を共有し事業中の立ち位置、役割、声かけ等を確認したうえ参加者の対応を行った。
- ・オンライン講義には、主とバックアップ、カメラ用として2台PCを使用し円滑に講義が行えるよう努めた。
- ・スタッフに先輩ボランティアを加え活動について等参加者に近い立場からの声が伝わるよう計画した。
- ・入口での消毒、室内の換気を適時行い、受講者の位置取り等密にならないように配置した。
- ・新型コロナウイルス対策として、事業一週間前から参加者には、毎日の検温や体調管理を依頼し、受付時にも確認を行い参加者の体調把握に努めた。